

ー03-02-02 ほめながら“しつける”①ー

「こどもは、ほめながらしつけましょう。」「しつけのコツはほめることです。」など、よく聞く言葉です。ところが現実にはなかなか難しい問題です。特に 3 歳頃になると、「いくらほめても無視されて・・・」などと相談されることが多くなります。なぜ“ほめても無視される”のでしょうか？

『“ことば”は生き物』です。子どもも、2 歳を過ぎるころから急激に自我が発達し、3 歳頃になると、同じ“ことば”であっても、こどもの耳や目には“ほめる”は、お母さんの“本心”から出た言葉と“聞こえる”し、“おだてる”には“下心”があるように聞こえるのではないのでしょうか。まだ十分に日本語を理解できないこどもは、顔つき・雰囲気・語調・仕草・タイミングなどを総合して『お母さんの“ことば”』と理解しています。お母さんが“本気”でそう思った言葉は、これらのバランスが整っているため“本当の気持ち”として伝わります。しかし、“下心”がある場合は、どこかそのバランスが崩れているのではないのでしょうか。

たとえば、役者には、“名優”と呼ばれる人もいれば“大根役者”もいます。台本は同じでも、“名優”のセリフ・立ち回りなどには役者本人のメッセージが隠されています。お母さん方も、こどもに自分の意志を伝えたかったら、やさしく“本気”で頼んでみて下さい。その心が伝われば、こどもは動きます。本気で頼み、こどもがそれに応じてくれると“ものすごくうれしい”し、“かわいらしいっ！”と思えて、とっさに出た言葉が“ほめる”と考えてみて下さい。それは、“本心”よりの“ことば”のため、こどもも“うれしい”のです。また、“それを演じる”ことも状況によっては大切です。(＝父親の場合も同じです)

一方、こどもは母親が喜んでくれることが一番うれしいのです。

“ことば”が伝わった瞬間は親と子の心が一致した瞬間です。これが“ほめながら育てる”と言う言葉の意味と筆者は考えています。お母さん方も“名優”になって下さい！ “ダメす”事とは違います。



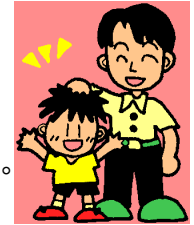
03-02-03 ほめながら“しつける”②：“ほめる？” OR “おだてる？”

「ほめる」と「おだてる」・「お願いする」を調べてみると、

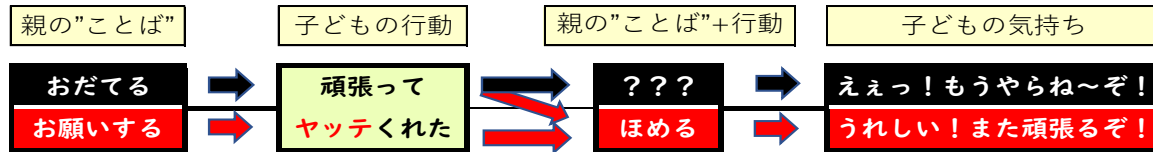
「ほめる」：人のしたこと・行為などをすぐれていると評価して、そのことを伝える。たたえる。

「おだてる」：あることを“させよう”という意図をもって(=下心)，人をいい気にさせる。

「願う(=お願い)」：こうしてほしいことを人に頼む。



“ほめる”と“おだてる”の違いを図に書いてみます。



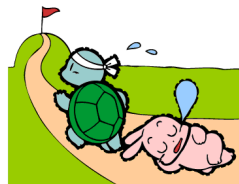
???

たとえ”ほめる言葉”を言ったとしても、“本心か？”・“口先だけか？”は、子どもたちは、すぐに見抜きます。

「ほめる」は、ある行為を頑張ってくれたことに対する“評価”であり“気持ち”です。“頑張してほしい”行為の前の声掛けは、“おだてる”・“お願いする”になります。これを間違えると「いくらほめても……」と言うことになります。特に、2歳を過ぎる頃より言葉の理解が急速に発達します。「言葉は生き物」です、子どもは、言葉の裏(=下心)を的確にキャッチするようになります。名優になったつもりで、上手に「ほめて」下さい。「ほめ上手は、しつけ上手。」

年齢が大きくなるにつれ、“お願いする”だけでなく“しっかり説明する(=話し合う)”が必要になる時期が来ることもお忘れなく！(その頃には、“おだてる”は、逆効果の場合もあります)。

03-02-04 しつけ(何を、どう?)③



佐々木正美(児童精神科医)先生のお話(“しつけ”について)

- ① 内容は時代と共に変わるとは言え、基本的なものは変わりません。しつけとは、その子にどう育ててほしいのか、何を身に付けてほしいのか、家族や社会が期待していることを、その子が自主的、自発的に動けるよう教えていくこと。期待する行動が習慣になって、考えなくても自然とできるようになることがしつけといえる。
- ② しつけに関して、最も気をつけなければならないことは、自分の期待することを子どもの“自尊心を傷つけないように”伝えること。(=虐待としつけは紙一重/筆者注)
- ③ 大事なことは子どもに何度でも伝えるだけでいい。いつからそれを実行できるかは待っていてあげるといふ親の姿勢が、子どもの自律心(自分で自分をコントロールできる力)も育てる。
- ④ こどもは、尊敬できる人、信頼できる人の言うことなら受け容れられるのです。しつけとは、親を信頼することを通して身に付けていくもの。

何を伝えるかは、その人の時代の影響を受けた価値観で違ってくるわけですが、子どもの自尊心を傷つけないこと、これは時代や文化を越えて一番大切なことだと思います。

“しつけ”は、“し続ける(=しつづける)”とも言われます。慌てずゆっくり信頼関係を築きながらお願いします。筆者が個人的に、今の子どもたちに“しつけ”てほしい事は、

- ① 集団生活をする上での最低の約束事(=常識)
- ② 身を守ること(=子どもの将来の健康を含めて小児科医としての希望)
病気や事故・その他困った時などの対処法や予防の仕方など(=生活リズム・食生活なども含む)
- ③ 家庭での約束事・親の子に対する希望(=どう育ててほしいなど)